

平成 22 年度

事業所名 : グループホーム ハイムはまゆり

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0371100249		
法人名	医療法人 楽山会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム ハイムはまゆり		
所在地	〒026-0052岩手県釜石市小佐野町3-9-2		
自己評価作成日	平成22年10月1日	評価結果市町村受理日	平成23年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0371100249&SCD=320>

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成22年10月20日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは山が見え、近くに川が流れ、駅にも近く法人の病院、介護老人保健施設や特別老人ホームが側にありそんな環境のグループホームです。病院にかかる際は待ち時間も無くスムーズに対応している為入居者にとって良い様に思われます。家族の方も安心して居るようです。当ホームの一番良い所は入居者の笑顔といつでも声を出して歌を歌っている所です。元気一杯の入居者が居るところです。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

病院や介護老人保健施設など、法人系列の各種施設が隣接して整備されており、これらが連携して対応していることから、利用者・家族は安心して利用できる環境にある。利用者及びスタッフがホームで「共に生活をする」という基本姿勢で、毎日過ごしている。ホームの掃除は、「ハタキ」と「箒」を使って行うなど、昔の生活を楽んでいる雰囲気がある。ケアプラン作成の方針は、自分らしい暮らしを維持していくこと、できることを継続していくことを基本に取り組んでいる。また食事は利用者の希望を入れた献立としながら、皆で栽培した食材や、季節のもの、手づくりこだわっている。食事時間も時間をかけゆっくり行い和やかな雰囲気でお話で、おかわりする方もいるなど、自分の一日を楽しく過ごすことのできる事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

事業所名 : グループホーム ハイムはまゆり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関入口の廊下に展示していたり職員が入りしている事務室に掲示している。一日1回の申し送り時に理念である職員の心構えを声を出して反復し意識付けを行っている。	スタッフは利用者と共に生活をする」という基本姿勢のもとで、毎日対応している。例えば、全員が声かけしながら、利用者が昔実践してきた「箒とハタキ」を使い掃除をしたり、床を雑巾がけしたり皆と一緒に体験しながら対応している。	利用者が実践してきた普通の生活を、ホームで普通に活かしていくことで利用者はものすごく落ち着いて暮らしているこの状況を継続することを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への行事への参加や法人での行事や消防訓練等にも参加して頂いている。今回の盆踊りには入居者全員で参加してきた。毎月町内の美容師さんのボランティアによるお化粧をしてもらっている。	ホームは、一般住宅から少し離れ、法人施設群の一角に立地しているにも関わらず、盆踊り等地域行事などに参加するほか、美容師の来訪、お茶飲み交流など、地域との交流や付き合いを深める工夫をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の体験学習の受け入れやこれからの仕事にして行きたい福祉の仕事体験者の受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度は行っている。会議時は家族会も同時に行われ地域包括センターの担当者より釜石市認知症高齢者徘徊sosネットワークの説明をして頂いた。	入居者参加の下で、2か月ごとに開催している。会議を通じ、防災訓練時の町内会の応援体制のお願いや、会議後、敬老会のお祝い行事と一緒に参加するなど、運営推進会議がホーム運営の応援団的な役割を果たしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	家族会や運営推進会議等に参加して頂いている。又小佐野地区生活応援センターの保健婦さんからの体操指導を受けたりしている。	介護や生活保護の担当者の来訪により指導助言があるほか、家族会等にも職員の参加があり情報交換をするなど良好な状態での協力関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	廊下に身体拘束排除宣言を掲示し常に目に留まる様にしている。当ホームでは開所当初より身体拘束廃止いわて宣言身体拘束ゼロを目指してを実行中です。	身体拘束排除宣言のもと「無断外出はあり得ること」との認識の下で職員は対応しており、例え、外出があったとしても本人の行動パターン等を把握しており速やかに対応できる体制をつくっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ニュースや新聞等にも気を配り職員や家族にも説明をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は対象となる入所者は無いが以前あった為職員は理解をしている。今後そのような入居者が出てきた場合は活用していきたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、十分な説明を行い理解をいただいている。家族の面会時に疑問や不安等の確認を行い説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議等意見を出して頂くような場面で市の担当者聞いていただいている。その他に毎年家族会でアンケートを行い、前回の内要を説明をしている。	全利用者が参加している運営推進会議や家族会の機会を通じて、或いは家族の来訪時や、アンケート調査の実施など、様々な機会を捉え意見・要望の把握に努め、意見等があった時はその反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員に対して提案や意見を会議等やその都度話し合ったり意見を聞いたり業務に対する意見が多く運営に関する事はない。しかし職員間のコミュニケーションが図れる様心がけている。	会議等のほか日頃のコミュニケーションの中で意見等を聞き反映に努めている。なお内容によっては法人の運営委員会や理事長等幹部の来訪時に現場状況を説明し法人として解決に当たっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人で労務管理や給与水準等把握している。勤務時間帯も職員の要望を採り入れながらシフトを作成している。各資格の取得にも向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協会の研修会や勉強会に参加している。又併設の介護老人保健施設での研修会や釜石市岩手県の研修会等にも職員の育成の為に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修会や勉強会に参加したり、釜石市の主催の研修会に参加しシツの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族の困っている事や、利用者が何で困っているのかを良く家族から確認をして利用者が安心して生活出来る様家族と共に不安を取り除ける様誠意を込めて対応していく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活していく中で家族の困っている事は少し解消されると思うが不安はあると思うので面会時やその都度要望は聞き入れながら安心して生活出来る様対応していくよう努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談を受けても現在の状況を説明し入居不可能な場合は、他のホームや在宅支援センターを紹介したり併設の介護老人保健施設の相談員を紹介する様対応して一。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々のケアの中で言葉や表情を観察して支援される側、する側を意識せずお互いに協力しながら和やかな暮らしが出来る様支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子や職員の思いを伝えることで本人と家族の関係が良好になり笑顔で面会できるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院や日帰り温泉に出掛けたりして今までの出掛けられた色々な場所に出かけられるよう支援して生きたい。又併設の職員の出入り等もあり常に声を掛け合っている。	友人等が来訪したときには馴染み関係が継続するよう再来をお願いしたり、行きつけの美容院の利用、お墓参り、親戚への訪問など、利用者にとって馴染みの人と場所との関係が続けられるよう工夫しながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの居室に招いてお喋りしたりソファや座敷、玄関前のベンチを利用して仲良し同士私語したり出来る様配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても気軽に訪問して頂けるよう説明している。特に併設の施設では行事時に一緒になる事もあり途切れるようなことは無く季節の挨拶にも立ち寄っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で本人にとって何が最も良いか入居者がその人らしく暮して行ける様家族と一緒に検討をしている。快適な生活を送って頂ける様出番等に気をつけている。	独自の「バックグラウンドアセスメント表」に基づきこれまでの暮らしやこれからの希望等を把握しているほか、日頃の行動や会話等で新たな点を発見したときは、連絡ノートに記録し共有し、それをケアプランに活かし、本人が活動する場面に引出せるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の中で本人がこれまでの暮らしぶりを聞き取りしたり入居時に家族からバックグラウンド用紙に記載して頂きそれを元にして生活していく中で変化を見つけ経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事、入浴、掃除、体操の時間以外は特に決まったプログラムを作らずに一人一人の状況を見て無理なく暮せる様対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の関わりの中で本人の思いや家族の思い、又は意見を取り入れ本人一人一人に沿った自分らしく暮せる様に計画を立てている。	自分らしい暮らしを維持していくこと、できることを継続していくことをケアプラン作成の基本とし、その視点を踏まえてのアセスメントやモニタリングを実施し、そのために家族や職員の意見、アイデアを活かしているとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員がその日の介護の記録を記録している。特に見守りを必要とする入居者は細かく記録し、連絡を徹底している。又三ヶ月の見直し等は介護計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が対応できない通院介助(併設病院以外)の介助を行ったり、併設病院の受診がスムーズに行われる様支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が安心して地域で生活をして行ける様に町内にある派出所や消防署、小佐野地区生活応援センター、町内会等に広報を配布して、法人での集まりのある時等口頭で支援の要請している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の要望を採り入れながら併設病院の入居者それぞれの主治医対応して頂いている。	法人の併設の病院利用が殆どで、それぞれの主治医が対応している。医療受診は家族に付添をお願いしているが、緊急時や家族対応が困難な時は職員が同行している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームには看護師が配属されていないが併設の介護老健施設に看護師長及び看護師が配属されている為緊急時や相談時には対応して頂いている。特に夜間帯も対応をいただいている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設病院に入院し主治医との対応にてスムーズに連携が取れている。又入院中病棟の看護師とも情報提供を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアについては家族には説明をしている。重度化についても説明をしている。状態の変化があった時は主治医に情報提供を行い対応してもらう。	看取り対応は行わない旨を家族に説明をしている。体制的な面や、法人併設の病院等が隣接していることなどから、状態変化があったときは、利用者の主治医により対応をお願いすることとしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故報告やヒアリの書類提出や急変時の対応の仕方等勉強会を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人や併設施設と合同で避難訓練をしている。又町内会との協定書に基づき消防訓練に参加して頂いている。夜間帯に避難訓練を行っている。日常生活の中で入居者と災害の時は職員の声かけで避難する事を会話を行っている。	年2回、地域住民の参加支援を得ながら通報訓練や避難訓練、夜間想定訓練等を法人内の各施設合同で実施している。スプリンクラーは平成23年度に整備する計画である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の個々のプライドに気をつけながら話しかけや会話には充分注意をしながら対応しプライバシーについても損ねない様注意し対応している。	接遇やプライバシー保護の研修を実施しているほか、誇りやプライバシーを損ねないため、各居室を訪問する時はノック後声かけし確認して入るとか、話し方や接し方においてもゆっくり話し本人が不穩に陥らないよう留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や自己決定出来る様家族等に協力を仰ぎ自分で名納得出来る様働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるものの特に強調せず一人一人のペースで過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や外出時はその人らしい装いが出せる様声かけしたり一緒に準備したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食のメニューを決めている。入居者の希望を取り入れたり季節の食材で煮炊きは職員が行うものの材料の準備芋の皮むきや、もやしひげ取りを行っている。食後の食器拭きや米とぎもしている。	献立は利用者の希望を入れ、皆で栽培した食材や、季節のもの、手づくりこだわっている。三食ともスタッフと一緒に食べ、食事中は皆が和やかな雰囲気会話に弾み、また食欲もあり、おかわりする方もおり、残食する方は誰もいなかった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一週間のメニューが決まっている。食事の摂取量も毎回確認をして介護記録に記入をしている。三度の食事の他に午前午後の時間入浴後のお茶や水分補給をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員の見守りや声かけ等で歯磨きをしている。就寝前に義歯を預かり消毒をして起床時に渡している。今年は岩手県歯科衛生士協会の主催で7月から10月まで口腔ケアの指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人のパターンを理解し無理の無い様声かけにて対応している。パット使用しオムツを使用しないようトイレ誘導を行っている。	排せつサインを見逃さずトイレ誘導を行い、できるだけ自立支援に心がけ自信を持たせたいとし、オムツ使用を少なくしパット使用で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や朝食事に牛乳や植物繊維のある食材を使用している。又体操時におなかのマッサージをしたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の身体能力に応じ又重度の認知症の為拒否があるも毎回入浴をしているが時には職員の判断で必ずしも優先でないときもある。又気の合った入居者同士で一緒に入り歌やお喋りしながら温泉気分を楽しんでいる。	入浴は希望に応じ午前・午後の時間調整をしながら概ね週2～4回である。気のあった者同士が一緒に入る時もあるが、1人でゆっくり心地よく風呂を堪能してる利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事後の時間帯は自室で思いのまま過ごしている。自室に招いたり又は夜間安心して休まれる様職員が見守りしていることを話したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の処方箋の内要を確認して事務室で管理している。食前食後に口腔内や袋を開けて手渡しをし口に入れた所まで確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時にそれぞれのバックグラウンドで好みや趣味を生かして合った役割や出番を見出している。職員と買い物に出かけたり、お店に行きコーヒーやアイスクリームを食べてきたり気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には外出は困難であるが近所に散歩する位です。家族の協力で買い物やドライブは行われている。毎年釜石大観音に行ったり日帰り温泉に行ったりしている。家族の協力で墓参りや親戚の法事に出掛けられたりしている。	広い法人敷地内の散策や、近所に広報誌を届けたり、近くにある市の相談センターに出かけている。また家族の協力を得ながら温泉日帰りバス旅行や釜石大観音参拝に出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症が重度になり外出や通院の際に支払いを行うも段々に面倒になってきて職員にしてもらうようになってきた。普段お金を必要としなくなっているためである。軽度の入居者には今までどうり買物をして貰うよう支援を行う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望者には適宜に対応している。自室で会話をしたりしている。お友達からの手紙に返事を書いたのをポストに入れる様対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	周囲は併設の施設がありホームの玄関も家庭の入口にはなっていない為玄関前に職員の車や自転車置き玄関前にはベンチを置きいつでも座れる様にしている。又季節を味わえる様花や壁画を飾っている。目の不自由な入居者が居室、トイレが分かるよう赤い花を入口に飾ってある。	回廊式の建物で各居室から居間など全体が見渡せ利用者の孤立感が解消され、職員も見守りしやすい環境にある。外出する機会が少ない分の歩行訓練などの運動場として活用している。共用部分にはイス、テーブル等が置かれ、花や絵画や日常の利用者の活動写真などが飾ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアや畳のところ等に仲良し同士でテレビを見たりソファでお喋りしたりそれぞれに空間を利用している。又職員の目に入る範囲で過ごせる様配慮しながら見守りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、入居者がその人らしく過ごせる様馴染みの家具や思い出の写真等を飾り、仏壇を置き朝夕に合掌して前人を敬っている。またアイドルのポスターや写真も貼っている。	備え付けのベット以外は、全て利用者の持込で、タンス、仏壇、位牌、家族写真など、それぞれ利用者の思い思いに配置し、落ち着いた雰囲気の中で心地よく暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の能力を職員は十分に理解をし予め混乱をしない様に配慮している。		